

第178回 教育研究評議会要録

日時 令和元年12月18日(水) 13時00分～14時37分
場所 第一会議室
出席者 今岡学長, 藤原理事, 小路田理事, 小川理事, 井深理事, 成瀬副学長, 三成副学長,
吉村副学長, 春本副学長, 久保副学長, 野村文学部長, 渡邊理学部長, 黒子生活環境学部長,
高田人間文化研究科長, 石崎, 中山(満), 上江洩, 棚瀬, 中山(徹), 林井, 柳澤各評議員
列席者 酒居監事, 福田監事, 岩阪事務局次長/総務・企画課長, 桑原国際課長, 川村研究協力課長,
林財務課長, 清水施設企画課長, 鱸学務課長, 西村学生生活課長, 仲入試課長,
横井学術情報課長

議事に先立ち, 前回の記録の確認。

I 審議事項

1. 学内諸規程等の制定等について

(1) 国立大学法人奈良女子大学の内部質保証に関する基本方針等の改正について

小路田理事から, 資料1により説明があり, 審議の結果, 原案のとおり承認し, 役員会へ付議することとした。

2. その他

特になし

II 報告事項

1. 国立大学との徹底した対話の実施に向けた調書の作成について

学長から, 資料2により調書(案)について説明があり, 出席者に対して意見照会があった。

高田人間文化研究科長から, 文科省との対話において, 大学の適正規模を問われたときにどのように回答するののかとの質問があり, 学長から大学については定員削減せずに新たなニーズの掘り起こしによる定員維持を主張する, 附属学校園については第4期中に現在の規模で生き残れるかどうか予算面も含めて検討すると回答するとの説明があった。

高田人間文化研究科長から, 工学部のニーズ調査について質問があり, 学長から現時点の回答状況の口頭報告及び後日資料を提供することの説明があった。高田人間文化研究科長から, 情報提供はアンケート項目及び回答結果も含め学内専用ページへの掲載等により全教職員に対してお願いしたいとの意見があった。

棚瀬評議員から, 今後10年を意識して作文されている点は良いと思うが, 奈女大だけが文科省からの定員削減に対する圧力に対抗できるとは思えない。定員を維持するには相当特長があり希望が持てる内容が求められる。文科省から定員削減を求められたときにどのように対応するののかとの質問があり, 学長から定員を減らすことは考えていないが, 減らすとすれば志願倍率や研究力により判断することになるかと思うとの説明があった。

棚瀬評議員から, 現在の工学部構想では向こう10年間持たない。文科省から研究力強化やそのための大学院構想について問われると思う。この点の見通しを示してほしいとの意見があり, 小路田理事から大学院については来年度具体的に検討するとの説明があった。

棚瀬評議員から, 志願倍率が期待できないという点では理学部と工学部は同じなので, 志願倍率だけでは定員削減を判断できないのではないかと, 第4期中期計画の策定時に大学院の在り方が問われることが予想されるので, 特に文学系, 生活環境学系の大学院の在り方について今のうちから考えておく必要があるとの意見があった。

野村文学部長から, 冒頭1の文章が長いので, 短く切るなど読みやすくするための工夫をしたほうがよい, 執筆者以外の第三者が文体を整えたほうがよいとの意見があった。また, 連合教職大学院, 附属学校の在り方についての記述内容等について意見があった。

野村文学部長から, 文科省に提出した調書の教員への情報提供について確認があり, 小路田理事

から、文科省へ提出後に教員へ情報提供するとの説明があった。

高田人間文化研究科長から、これまでの本学の実績の記述が少ない、本学は自信をもって主張できる実績があるので、可能な範囲で記述してほしいとの意見があった。

三成副学長から、今後も重要な案件については今回同様に事前の情報提供と意見交換する機会を設けてほしいとの意見があった。また、第4期中期計画・中期目標の起案に際しては、今後の大学を支える人たちの意見を反映するために、ぜひ4部局長が直接参加して審議する体制を整えてもらいたいとの意見があった。

2. 奈良教育大学との連携協議について

学長から、設立推進協議会の協議状況について報告があった。

柳澤評議員から、奈良教育大学との争点や法人統合の工学部設置以外の2本の柱の協議状況が分かるよう、資料提示や関係者からの直接説明などにより報告願いたいとの意見があった。

小路田理事から、議事録は作成しているが、奈良教育大学と協議中の案件があるため現時点では提示できないとの説明があった。

棚瀬評議員から、支障のない範囲で議事概要を提示して欲しいとの意見があった。

高田人間文化研究科長から、公開できないような議論はおかしい。原則議事録は学内公開されるものとして議論を行うべきであるとの意見があった。

3. 工学部の設置について

小路田理事から、資料3により、検討状況及び12月10日の文科省相談の内容について報告があった。

棚瀬評議員から、他学部の専門科目を工学部の専門科目として位置付けているが、設置申請上あり得ない。この時期になっても科目一覧が示されていないし、出してもらいたい、具体の説明がないのはおかしいとの意見があった。

三成副学長から、リーダーシップ論及びジェンダー学は必修かとの質問があった。小路田理事から必修ではなく履修推奨科目として考えている。起業系科目、文化地域科目、奈良女子大学必修科目は他学部同様に全学共通科目として考えているが、資料中の文化地域科目のカテゴリに記載している生活史は生活環境学部の専門科目なので含めないよう修正しているとの説明があった。

4. 第66回経営協議会及び第259回役員会について

学長から、資料4-1及び資料4-2により報告があった。

5. 平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果について

小路田理事から、資料5により報告があった。

6. 大学機関別認証評価について

小路田理事から、基本方針の変更については今月の一連の会議で審議し承認される見込みであること、1月～2月頃に自己評価書の作成依頼を予定していること、卒業生満足度調査等による意見を受けてすでに各部局へ対応を依頼しているが、全学的な改善対策を評価企画室中心に検討していきたいと考えているとの説明があった。

7. 第3期中期目標期間の教育研究の状況についての評価（法人評価）について

小路田副学長から、研究に関する現況調査表作成にあたって、各学系や関係センターの特記すべき事例の情報提供、研究業績の提出について協力依頼があった。

8. 「副専攻」について

小川理事から、資料6により検討状況について報告があり、引き続き教育計画室で検討予定との説明があった。

吉村副学長から、各センターで設定すべき単位数の確認があった。また、学部の積極開放科目以

外の専門科目にも相応しい科目があるが、他学部学生の受入れ可否がわからないので、センターから教育計画室に対して設定可能科目の情報提供を依頼する可能性があるとの発言があった。

9. 奈良県吉野郡大淀町と奈良女子大学との協働連携に関する基本協定書について
研究協力課長から、資料7により報告があった。

10. シンポジウム「テクノ女子会」について

学長から、資料8により報告があり、部局内での周知依頼があった。

11. 各室等からの報告について

(1) ダイバーシティ推進センター

春本副学長から、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業の一環として取り組む「訪問型」病児・病後児保育システムのモデル構築のために、学内教職員及び学生を対象とした病児・病後児保育に関するアンケートを実施中であることの報告があり、部局内での周知依頼があった。

(2) アジア・ジェンダー文化学研究センター

三成副学長から、資料により、女性史学賞授賞式を1月11日に開催することの案内及び部局内での周知依頼があった。

12. その他

(1) 新年互礼会について

井深理事から、令和2年1月6日（月）16時30分から大学会館2階大集会室で開催することの案内があり、部局内での周知依頼があった。

以上